

サッカー交流

AMDA

1月の大地震で300万人が被災したハイチの子どもたちを、同国民に人気のサッカーで励まそうと、国際医療NGO「AMDA（アムダ）」（本部・岡山市北区）は16日、新庄村立新庄中の女子生徒2人を含む中高生18人のグループを送り出す。隣国ドミニカ共和国で親善試合を行う予定で、アムダの菅波茂代表は「スポーツを通じて心のケアで復興に向けた求心力を高めてもらいたい」と期待している。

新庄の中学生ら派遣



日本から参加するのは、新庄中3年新家夢紬さん（15）と同一年百合絵さん（13）の姉妹のほか、広島県内と大阪府内の中高生。菅波代表らアムダ側、指導者らを含め総勢25人となる。

ハイチからは十数人が参加を予定、ドミニカからは約50人が集まる。親善試合はドミニカの首都・サントドミンゴで2日間行う。

アムダによると、ハイチ

の子どもたちは、5月にアムダが贈ったシューズとボールを使って練習に励んでいる。ハイチではフランス語が話されているが、ドミニカの公用語・スペイン語の勉強も始めているという。

にも、今回の経験を伝えて「母親の紀子さん（43）は「現地で自分たちが何を出るかを考えてほしい」と願う。

2人は体育の授業でサッカーをしており、「普段、やっているスポーツが復興支援になるなんて。大好きなスポーツを一緒に楽しみ、被災地を活気づけたい」と話している。

ハイチでのサッカーを楽しみにする夢紬さん（左）と百合絵さん（新庄村で）

アムダによると、ハイチ

道正さんは「新庄の友達